

2024年11月6日 例会

旧玉里村を歩く コスモスと古墳群めぐり

開催日	2024年11月6日(水)		
集合場所	常磐線 高浜駅西口		
集合時間	8時40分～9時	9時20分スタート	
コース	高浜駅～霞ヶ浦左岸(コスモス)～大井戸公園～竹林の関仏像 ～愛宕塚古墳～瀧台古墳～権現山古墳～旧小松家住宅(昼食) ～船塚古墳～雷電山古墳～玉乃井跡～勤王志士戦場の碑 ～亀乃井跡～高浜駅		
距離・参加者	21km	20名	
ゴール時間	14時		

ウォーキング状況

2022年度実施「霞ヶ浦十里 高浜～玉造～高浜」の例会の時、湖岸のコスモスが非常に綺麗だったことを思い出し。また、旧玉里村の地区は非常に古墳が多いことで、これらを巡るコースを計画しました。

高浜駅を出発し、駅前通りを進み愛郷橋を過ぎると、霞ヶ浦左岸のサイクリングロードに出ます。ススキの穂が秋の気配を教えてください。暫く進むと、コスモスの花が迎えてくれました。コスモスは小美玉市の市の花で地域のボランティアの人が植え・世話をしているそうです。もう一週間程早ければ満開を楽しめたと思いますが、少し遅かった様です。



後方の筑波山、レンコン畑等を眺めながら、会話も弾み、折り返し地点の大井戸公園まで歩きトイレ休憩です。

ここから丘の麓の道に出て竹林の関仏像を横目に坂を登ると、古墳が点在する台地に出ます、本日一番目の愛宕塚古墳(6世紀中頃の古墳)に到着。麓の大井戸公園辺りは古くは大枝の郷といわれ、津(港)があり交通の要所で有ったようです。

愛宕山古墳から山田峰古墳、桃山古墳、瀧台古墳と見学し、一度麓に降り再び丘に登ると権現山古墳にでます。
その横手に尋常小学校の跡地に移築された、旧小松家住宅（庄屋格の民家、1787年頃）があり、そこで昼食休憩としました。
建物内には昔の農機具等も展示されていて話が盛り上がりました。
皆さんそんなお年頃なんですね。



軒下のぬれえんにて昼食



住宅内部



産部屋の床

管理人さんから、建物の奥に産部屋（さんべや）が有るのは非常に珍しいので、是非見て下さいと案内があり覗いてみると、床が竹すの子となっていて、「え」ここでお産??と直ぐには理解できなかつたのですが、お産の時のおりものを床下に落ちる様にしてあり、下には砂が置かれ、横の床下から掻き分けて取り出し処分したとの事でした。
こんなにお産の考え方・とらえ方が違っていたのか思い、後日、江戸時代のお産はどの様に行われていたか、ネットで調べてみました。

「お産は、家の外に作られた納屋、土間や納戸に隔離された状態でおこなっていました。大量の出血は忌み嫌われ、ケガレとする考え方があったようです。また、「座産（ざさん）」とよばれるスタイルが一般的で、仰向けに寝転がってはいけなさとされ、しゃがんだ姿勢のまま産したそうです。」

昼食後には新治郡田余尋常高等小学校の校門跡で記念撮影を行い出発です。



民家の柿の実を眺めながら古墳めぐりは、船塚古墳、雷電古墳と続きこれで今回の古墳巡りは終了です。



この玉里地区はこれ以上に多くの古墳が点在していますが、整備状況は良いとは云えないのが残念です。地図では古墳が有るのに実際現地に行ってみると確認できないのが多くありました。

高浜地区の古墳では高浜駅北側にある船塚山古墳が5世紀初頭の古墳で全長186mと東日本第2位の古墳です。今回見た古墳群はこの船塚山古墳の影響を受けているようで、その流れの一族の古墳群ではないかと思われています。

さらに範囲を広げて見ると、高浜に流れ込む恋瀬川の流域にも古墳はあり、恋瀬川上流（筑波山の裏側辺り）の長堀6号墳は4世紀初頭の古墳です。

古墳時代の初期に、恋瀬川上流に既に古墳があったことは、都との交流があったことです。どんな風に都と交流ができたのでしょうか。また、だんだん恋瀬側下流に生活圏が移行してきているのも考えると面白いですね。

次は玉里の名称の元となった、湧き水がでる「玉井」です。
雷電神社から大宮神社の前を通り、坂を少し下がった所を左折した所に
有ります。元々は大宮神社の境内ではなかったのではとされています。



道路脇から少し入った所に上記写真の様に碑と看板が有るだけで、現在は湧き水は出ていません。そのいわれは下記の通りです。

玉里

「常陸国風土記」茨城郡の条の最後に、「茨城郡家の東、10里（約5.3 km）のところに桑原岳（くわはらのおか）がある。昔、倭武天皇（やまとたけるのすめらみこと）が岳の上にしばらく休み、食事を差し上げようとしたとき、水部（もいとりべ）に命じて新たな井戸を掘らせた。湧き出た泉は清浄で香気があり、飲んでみると美味しかったので、「能き停水かな（よきたづみかな）」とおっしゃった。これを、地元の人々は「よくたまれる水かな」という。これによって、この里の名を今は「田余（たまり）」という。」という記述がある。「桑原」という地名には遺称地がないものの、旧・茨城県新治郡玉里村は昭和30年に田余村と玉川村が合併してできたもので、田余村の名は「和名類聚抄」にある「田余郷」に由来し、これが「常陸国風土記」にいう「田余」の里であるとされる。そして、「小美玉市 玉里総合支所」（旧・玉里村役場）の向かい側に鎮座する「大宮神社」社地及びその北西部の台地（「宮平」という。）が「桑原岳」、「大宮神社」の東側にある「玉井」が泉の跡に比定されている。

玉井を見学後、勤王志士戦場の碑、亀乃井を見学して高浜駅に無事ゴールしました。
 少しマニアックなコースになったかことをご容赦下さい。
 おつかれ様でした。

以下に今回の古墳の案内板の写真を添付します。



愛宕館跡



愛宕塚古墳



山田峰古墳



桃山古墳



滝台古墳



権現山古墳



舟塚古墳



雷電山古墳

以上
記 松崎 寛